

多孔質活性炭を量産

電気二重層キャパシター用 再生PET利用

大木工藝

【大津】大木工藝(大津市、大木武彦社長、077・549・1309)は、電気二重層キャパシター用の多孔質活性炭の量産体制を整えた。香川事業所(香川県さぬき市)に月産能力1トのプラント(写真)を建

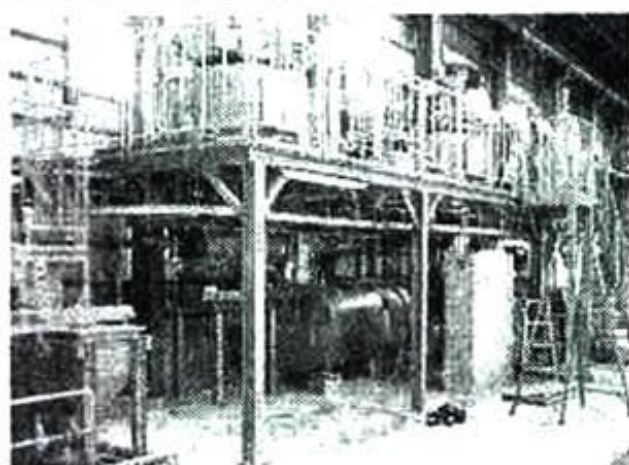
設、2014年1月から量産を始める。複数の電子部品メーカーで自動車関連や瞬時停電対策用で採用が決まるなど需要の立ち上がりに対応する。

プラントは約1億4000万円を投資し、関西大学や龍谷大学の協力を

上大きい多孔質の活性炭を生産する。当初は月500kg規模で生産を始め、順次生産量を引き上げる考えだ。

定供給などを武器に普及を目指す。電気自動車向けなど、瞬時に大容量で急速充放電ができる電気二重層キャパシター向けの需要拡大が本格化すると期待している。

同社はシートやネジなど建材や住宅資材、マッサーシローラーといった美容健康関連などさまざまな領域で炭素応用製品を手がけている。



得て建設した。生産する活性炭はフレックにリサイクルされたポリエチレンテレフタレート(PET)を原料にする。炭化にマイクロ波を利用することなどで、表面積が1kg当たり3600平方メートルと従来比1・5倍以